

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社ファミリーズ		
事業所名	グループホーム パラディーン神宮寺 1F		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105250&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人をたいせつに。できる事はしていただき、時間がかかれば声をかけて応援する。はじめから手伝うのではなく、その方の最大限の力がでせるように、ほんの少しからお手伝いさせていただくようにしています。何事もまず諦めずご利用者さんと一緒に頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は何か地域の皆様のお役に立つ事、貢献できる事はないかという想いから当ホームを開設した。この想いを職員が自分の思いと常にスキルアップを目指し地域に密着したサービスを実践している。「その人がその人らしく最後まで」をモットーとし残存機能をを引き出せる様なケアを心がけている。建物にもこだわり、木造で木の温もりが感じられ優しく穏やかな環境が整えられている。ホームは人の来訪を歓迎している。各居室にトイレと洗面所があり機能的な造りである。参考にしたいと見学に来られる方も多い。管理者の寄り添うケアへの想いは職員に伝わり人間味溢れたケアが実践されていてほのぼのとした暖かさを感じます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議・日々の業務の中などで理念について職員全体で再確認・共有しながら日々のケアにつなげるように努力している。	理念について職員会議や業務の中で繰り返し伝え共有し実践に繋げるように努力している。同じ立場で人生の大先輩として一人一人を見るように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事などご利用者と参加し、地域の一員として交流できるようにしている。	町内会の一斉清掃やごみステーションの掃除等地域の一員としての役割を果たしている。保育園や学校の行事に参加したり秋祭り等に来た子供さんにお菓子を配ったりする。中学校の職場体験の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等あれば理解や支援の方法を出来るだけわかりやすく伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々・ご利用者の家族に集まっていたり毎回有意義な時間を持っている。その話し合いを日々のケアに活かしているよう努力している。	町内会長、民生委員、家族、職員が参加して年6回の運営推進会議を実施している。意見を聞き、提案を頂いたり、状況報告をしたりサービスの向上に活かしている。	現在参加の人の都合で土曜日に開催されています。毎回各職種が参加することは困難ですが、行政の方に参加して頂けるよう工夫してみてください。実のある情報交換が出来ると思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判らない事などその都度、市と連絡をとり情報交換している。	毎月空き状況や活動などを報告し、介護保険の更新や変更など市との連絡は常に取り合い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で日々の介護について振り返る機会を持ち意識確認をしている。	「身体拘束をしない」事を原則としている。マニュアルを作成し職員会議で日々の介護から振り返り意識をもってケアにあたっている。運営規定にもあり家族には説明している。	管理者は「拘束しないケア」が特別なことではなく当然として捉えている。それが共通認識として職員にも伝わっている。その姿勢をいつまでも持ち続けて下さい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例などを知らせる事でこんな事でも虐待に当てはまったりする事があると皆で確認を深め、不適切なケアを提供する事がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会など参加する意志はあるが積極的には行っていないため今後の課題としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所日に時間をとり可能であれば、家族複数の人に対し説明を行っている。質問や不安な点に関しては丁寧に説明し理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など会話しやすい雰囲気作りをしたり、家族に質問し家族の意見を聞きだし反映できるよう職員間で話し合う機会を持っている。	本人、家族、職員が一緒に考え話し合えるコミュニケーションを大切に思っている。面会も多く話しやすい雰囲気があり要望など話して下さる。2カ月に1回写真や近況報告をパラディソ神宮寺の通信便りで送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は随時機会をもうけている。管理者は現場職員として働いている為状況を把握しやすく職員との距離も近く日常の中でのアイデアをすぐ聞き取れる。その他にも個別面談などの機会を持っている。	ホーム長や管理者は他の職員と一緒に現場で働いている。より身近な存在で何でも言えたり聞いたりできる。個別面談も行われ意見は十分反映されている。職員はスキルアップを常に目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者代理が現場におり職員と過ごす事多いため個別に職員の仕事量や疲労・意欲などを把握でき、個人的に話を聞いたりすることで一人一人が向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修会などには積極的に参加を進め勉強する事を推進している。勉強した事は職員会議で発表し他の職員にも伝え日々のケアに活かせるよう共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで交流の機会はあるが積極的には取り組んでいない為今後の課題としたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち共に時間を過ごす。本人からだけでなく家族から話を聞いたり、情報収集する。入所前に本人に見学に来てもらい安心につなげる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後数日(3日間程度)の様子を毎日電話して伝える。見学・相談にはいつでも応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の思いを第一に考え、相談にのり一番必要と思われる支援の提案を継続的に行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側の自己満足になることのないよう、対等の立場で日々の生活を送っている。「～してあげている」というような意識を持つ事のないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況ごとにまずは家族の希望を聞き、その後でホームの出来る事と出来ない事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームを訪れやすい雰囲気には来客を喜ぶ。散歩したり馴染みの店などへ出入りする。散髪など家族と行くようにする。	入居者は近隣の人が多く、友人や知人が良く訪ねて来て居室でお茶を飲みおしゃべりをして楽しい時間を過ごす。家族の面会も多くお墓参りや馴染みの美容院にも連れて行ってくれる。ホームは人の出入りを歓迎している。	面会者が多く普段から人と接する事に慣れているのか、皆さんとても穏やかで良い笑顔をされています。いつまでも笑顔が絶える事のないような関わりを今後も期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での席や過ごす場所など利用者同士の性格を考えて一緒に過ごせる様に声をかけている。自室に閉じこもる事のない様支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も来訪してもらえるような関係を築くようにし、相談などには快くのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族と話し、思いや願いを聞いてその人らしく暮らす事が出来る様にしている。	入居するに当たり本人、家族に前もって見学して頂き、納得して入居して頂いている。本人の気持ち、人間関係をとても大事にしている。自身で表現出来ない人は家族が思いを伝えてくれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや本人・家族との話しからどのような方なのか、どんな生き方をされていたのか知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを見極め必要な時に必要なだけの声かけ・介助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状表を毎月記入し、身体・精神的変化や本人・家族の思いを日々の関わりや話などから理解し職員全員で共有することでプランにいかしている。	職員は担当制にし個人の情報表を作成し記録を持ち寄り毎月話し合いをする。3か月に1回計画の見直しを行っている。家族には面会時に話をしたり伺ったりしている。個々に変化を見逃さないようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りで職員間の情報共有に努め、記録には大事な事は色ペンで線引きし一目でわかる様にしている。職員が行ったケアと結果も記録に残し、見直しに活かす様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の宿泊の希望や食事にも柔軟に対応できる様にしている。 外出・外泊時の送迎、病院への付き添いなど、その状況に応じ家族の希望を聞くなどし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員に参加してもらったり地域に馴染めるよう協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、今まで診てもらっていたかかりつけ医の継続や紹介も行っている。	協力病院や本人・家族希望のかかりつけ医師4人が交代で往診してくれたり緊急時病院への紹介もして下さり適切な医療が受けられるように常に連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在の場合でも連絡し、相談できる様にしている。介護職は日々の生活でいつもと違う様子を見落とす事がない様にし、異常があった場合は迅速に連絡・指示を仰ぎ対応するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、医師・看護師と話す機会を持ち、本人の状況などを知ってもらいなるべく早く退院出来る様に努めている。見舞いや食事の介助に行く事も多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員会議など職員全員の集まる場で、本人や家族の思いを確認・尊重しこれからのケアをどうしていくべきか考えている。家族とはその都度話し合いをし意志を確認しながら、後悔の残らない終末期を迎える事ができるよう努めている。	本人や家族の思いを尊重し重篤化した時のケアについてその都度細かい話し合いをする。後悔のない終末期を迎えられるようにホームで出来ることを説明し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないため今後の課題にしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回の避難訓練をしている。	4月に新人が入社した時と8月12月の年3回避難、防火訓練を消防署と連携を取りながら実施している。連絡網や避難経路も再確認し器具や設備の点検も同時に行っている。緊急時の連携を隣近所に声掛けお願いしている。	最近施設の火事や、地震が発生しています。自分で動けない人を外に連れ出す事は非常に困難だと思います。火を出さない事が基本ですが、いざという時の為一度話し合ってみて下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は「人生の大先輩」という気持ちを常に持つ事で一人一人の尊厳を大切にケアに努めている。	利用者は人生の大先輩という気持ちを大事に考えている。トイレや洗面所は各居室にあり個々のプライバシーは守られている。各部屋の前に名札は付けられていないが各々が分かるように扉は工夫して作られている。	利用者は自分の部屋に帰り他の人に気兼ねなく排泄出来る事でプライバシーが確保され不安なく落ち着いた時間が過ごせます。人を敬い大切にしているという気持ちがよく伝わってきます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の表情や行動から訴えがあると感じた時には話しやすい雰囲気作りをしたり、何かを決める時には必ず利用者が選択の出来る声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で何かをするという決め事は作らず、一人一人が好きに過ごしているが、声かけなどで手伝いをしてもらったり、こちらから提案することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など職員が準備するのではなく、本人の好みで選んでいる。自己決定が難しい方は選択で決めてもらったり本人の反応を見ながら職員が提案したりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買物へ行き、メニューを決めたり、調理をすることで食事を楽めるようにしている。	食材を一緒に買いに行き調理や片づけを手伝ってくれる。湯呑、茶わん、お箸は自分が使っていた物を持ってきている。お酒の好きな人がいて夕食時の晩酌を楽しみにしている。お寿司や好きなものも希望で食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量、おおよその水分量を把握している。食が進まないときには、食べやすいものを出したり、臨機応変に対応しバランスの摂れた栄養・水分摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて、声かけ・見守り・介助を見極めて出来る所は自分で行う事が出来るよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の無い方や、パットに排尿があった場合も必ずトイレに座っていただいたり、排泄パターンが把握出来るまで、こまめな誘導をしたり、本人の出すサインを見逃さないようにしている。	排泄チェック表でパターンを把握し本人の出すサインを見逃さないように部屋に誘導する。トイレに座ることの重要性、自立心を常に認識し対応している。自室にトイレがある事で夜間一人で行ける人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、牛乳・ヨーグルト・腹部のマッサージ・食物繊維の多い食べ物を出す・運動など個別に対応するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外は入浴を行い入りたい時に入れるようにしている。異性介護を嫌がられる方には同性介護を行い心理的にも配慮している。入浴方法も本人から希望を聞ける方には聞き対応出来る様努力している。	月曜日から土曜日迄本人の希望を聞きながら入りたい時に入って貰っている。異性の職員の介助を拒否する人には同性の職員で介助出来るように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	薬に頼らなくても良いように、日中に活動出来る様リズムを作り、夜はリラックスした状態で布団に入る事が出来る様支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の成分・効果などののった処方箋のファイルを作りいつでも見られるようにしている。服薬の際にも本人に手渡し、服薬できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きだった事や物など家族にお願いしてホームに持参してもらったり、職員が教えてもらう立場になり、利用者が生き生きと過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分の家に帰る・買物に行く・外食へ行くなど個人個人の希望に沿って外出できるよう努力している。家族の協力が必要な場合には連絡し、連携がとれるようにしている。	ドライブでお花見や食材の買い物に行く。マリンホテルでの食事会、県警音楽隊の吹奏楽を聞きに行く等家族とともによく参加している。近所を散歩したり、少しでも外に出掛けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望によって、所持するか所持しないか決めている。買物で欲しい物の購入の際には自分の財布からお金が払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はコードレスの為自室へ持って入れるのでプライバシーが保たれている。荷物や手紙が届いた際にはお礼の電話をかける提案をしたり、やり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を生けたり掛け軸をかけたらし季節感を演出している。	建物は木造で天井に昔ながらの梁を残し、木の温もりが感じられとても穏やかな空間である。大きな窓から見えるベランダはウッドデッキで日向ぼっこをしたり、季節の花を植え水やりをする。ホールにはソファや畳コーナーに炬燵がある。暖かな家庭の雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所にもソファを置いて人目を気にせずゆっくり出来る場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より本人の馴染みの家具や品物を持参してもらい本人が安心して居心地よく過ごせるように家族にも提案している。	各居室には車いすで入れる様に三つ折戸のトイレがあり洗面所もある。家族と相談し使い慣れた箸や茶碗、好きなお茶セットや自分の趣味の作品、仏壇を持ち込みお茶等お供えている。我が家にいる様な安心感が持てる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々変化する利用者の状態を把握しながらどうしたら本人が安全に出来るだけ自力で生活出来るかを考え、目印を付けたり手すりを置いたり、動線を考え環境整備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社 ファミリーズ		
事業所名	グループホーム パラディーン神宮寺 2F		
所在地	岡山市北区北方1丁目14-3		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自分で選び自分でやる、したいときにしたいことをする。口から食べる、寝たいときに寝る、起きたい時に起きる。 そんな当たり前のことをだれの気兼ねもなく行える。そんな自由な生活を送っていただきたい。 その人がその人らしくをもっとうに！！ 利用者ひとりひとりの笑顔を見ていただきたい。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105250&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年3月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議での全体ミーティングや職員ひとりひとりが振り返る場面を作り、理念を共有することで、利用者のケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園の行事に参加したり、中学校の課外事業の場所としても提供している。また、買い物・散歩など外に出る場面を提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があればわかりやすく説明するように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での町内会の方からの提案で秋祭りへの参加など行っており、今後も参加者の意見を取り入れていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことなど介護保険課に問い合わせたり、日頃から情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には入職時に学習してもらおうと共に日々のケアの中でも振り返る場面を作り、安心して自由な生活が送れるよう支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例を用いて、虐待への認識を高め、そのようなことがないように職員全体で確かめ合い、利用者には不快な思いをさせないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は勉強不足で認識も低いが、今後の課題だと感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはより多くの家族に参加していただき、金銭面や状態が悪くなった時の対応、不安な点については十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人・家族とはコミュニケーションを常にとり、要望など聞き取りに努め、職員全体で共有しケアに繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会・個人面接で意見や困っていることなど把握し、解決や日々のケアにつながるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者代理は現場職員でもあり、常に職員の動向を把握できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように支援している。また、勉強会で発表し職員全体で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知り合いのヘルパーステーション代表者と意見交換の場所を作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接し本人の状態を把握する。入居の際に安心していただけるような関係作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に時間をかけて聞き取りを行い、家族としての思いを大事にし、いっしょに本人を支えていくことを理解していただく。要望等を言いやすい関係作りを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを大事にし、出来る限りの支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来るを奪わない、自分で出来るようにサポートしたりわからない事は教えたり、教えてもらったりする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の付き添いや、散髪など家族の役割として明確化している。また、家族だけでは不安なときには協力できるよう柔軟な対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出や外泊、いつも行っていた商店などへ行ったり、友人の面会も来やすいように対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通した話題の提供や自由に話せる環境の提供。トラブルになりやすいケースも注意深く見ている。自室に閉じこもったり、一人にならないよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用していた家族から入居者や職員の紹介を受けたケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人間関係の構築、日々の変化や本人の気持ちなどを大事にし、聞き取りできない方は家族へのアプローチなど、思いを伝えられる環境をつくる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話などから見出される過去や、家族への傾聴を行い、その方の生き方などを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の変化の把握、出来ないことより出来ることの発見を大事にしている。そのことを個人記録に掲載し全職員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを大事にし、担当職員や全職員の意見も含め作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動や注意することを色を付けて解りやすくしており職員が大事なことは共有しやすいようにしている。そのことを踏まえ全体像の中から今後の課題を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や外出など、家族の状況に応じて、付き添いや送迎など出来ることは柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会への加入や運営推進会議では町内会長、民生委員にも参加していただき、地域の方にも協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望で入所前のかかりつけ医の継続や緊急時の往診・救急病院への紹介などスムーズに行えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には日々の変化を伝え、その方にあつた対処法を考えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には全職員がまめに面会に行き、本人の状態を把握すると共に食事介助に行ったり、早期退院へ努めている。退院時には、家族と共にカンファレンスに参加し退院後のことについても考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を一番に考え、家族・医師・職員が連携をとり、本人をみんなで支え、後悔の残らないように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを作成しており、迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練マニュアルを作成しており、年2回の避難訓練を実施しているが、地域との連携も運営推進会議で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の大先輩であり、一人の人間としての尊厳を大事に思っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に発言できる環境作りや、日頃の表情や言動から、訴えや希望を察知しやすいように心がけている。また、自己決定できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が自由に過ごせる時間や環境作りを行っている。また、必要とされている事を実感できるような声かけや手伝いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人に選んでいただく。誕生日などに好きな物を提供する。そのため日頃から好物の聞き取りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理、盛り付けまで一緒に行えるように支援して楽しく食事が出来るようにしている。また、洗い物も参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握、食べれない方には、好物の提供や食事形体を変更したり口から食べる事を一番に考えている。また、家族にも協力していただいている。水分量の把握はほぼできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。その方にあったやり方を実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行って座ることの重要性を全職員が認識しており、排尿パターンを把握することで、利用者に合わせ時間やリハパン・パットの使用についても検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分量や運動の重要性を全職員認識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人一人ゆっくり入れる時間を設けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前のパジャマへの更衣、安心して休める環境作りを行い、日中とのメリハリを大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルで全職員は利用者全体の服薬、効能、副作用を理解し手いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の能力や性格を把握しており、その方にあつた事を提供できるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を大事にし家への外泊や外出が出来るように家族へアプローチしたり、買い物への定期的に全利用者が参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承が得られれば、所持も買い物も出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方や、希望があれば電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花や額縁で季節感を出しており、リビングと台所がつながっており、食事作りの音やにおいで利用者が寄ってきたり生活観もある。室温は利用者に合わせて心にかけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士など二人で話せる環境作りなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具など持ってきていただき、馴染みあるものを活用できるよう家族とも話し合い行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力、動線、その日の状態からなるべく自分で出来るように見守りや介助を行い、安全面も考慮したうえで対応している。		